追悼文

故 香川芳子先生を偲んで

女子栄養大学短期大学部　副学長　松　田　早　苗

2024年２月19日　学園長　香川芳子先生は92歳で人生の幕を閉じられました。芳子先生は，敬虔なクリスチャンでいらっしゃいました。クリスチャンにとって，天に召されることは，イエスキリストのもとに帰り，新たな人生の幕開けなので大変喜ばしいことなのですが，芳子先生の逝去の知らせに学園は深い悲しみに包まれました。芳子先生が残した栄養学に対する功績は，石田先生が日本栄養・食糧学会誌（vol. 77 4 2024）に寄稿されていますので，私は学内での普段の芳子先生について，書かせていただきたいと思います。

芳子先生が担当されていた「実践栄養学」は，学部・短大の１年次に開講される卒業必須科目です。四群点数法について学び，食事記録を秤量法でつけ，栄養素摂取量や食品群別摂取量を求め，自分の食事を栄養素レベル，食品レベルで評価し，自分の食生活の問題点を知り，改善計画を考えます。さらに四群点数法に基づいた献立を作成し，調理・供食することでバランスの良い食事への理解を深め，日々の食生活で実践することの重要性を学ぶ本学独自の講義です。短期大学部の第三者評価では，学長が自ら講義をしていることに評価員の先生方からは驚きと授業に対して高い評価をいただきました。学生の授業評価でも「芳子先生の講義が興味深かった」「課題が多く大変だったが，自分の食生活を振り返ることができ良かった」とのコメントが多くの学生から寄せられました。この講義は，芳子先生の他に，毎回の膨大な課題を説明する教員が１人つきます。短期大学部では，松田が課題の説明担当教員として５年間つかせていただきました。１回の授業での芳子先生と松田の時間配分は，芳子先生の年齢を考慮し，芳子先生が45分，松田が45分とし，芳子先生はタイマーをかけてお話しされるのですが，「もう少し話させて」と，ほぼほぼ毎回延長し，70分位になることもありました。椅子も用意をしましたが腰掛けることなく，全15回の講義を83歳までされました。教壇に立たれた時の芳子先生の凛とした姿は今も目にやきついています。楽しそうに講義をされる様子や，年齢を感じさせないパワーのある講義を通して，教員のあるべき姿を芳子先生はお示しくださいました。

学生実験の一項目に，動物飼育実験があります。たんぱく質源の質・量の異なる飼料をラットに投与し，成長の違いを観察することで，たんぱく栄養への理解を深めるとともに各種臓器の構造について，さらには生命に対する感謝の気持ちを持つことなど，あらゆることを学ぶことを目的とした実験実習です。この実験に芳子先生は強い思い入れがあり，これは私の想像ですが，この実験を学生実験に導入したのは芳子先生だったのではないでしょうか，学内で会うと「たんぱく栄養の実験はしていますか。たんぱく栄養について最も学べる実験だから，短大でもこの実験は継続しなさい」と必ず言われました。駒込校舎の動物飼育室は，芳子先生がアメリカ留学を終えられ短期大学に着任し，動物実験がしたくてご自身で動物飼育室を設計したと伺っています。温度，湿度，明暗が保たれており，おそらくここまで飼育環境が整った動物飼育室を持つ短大はないと思います。芳子先生は，動物実験を始めようと思ったやさきに栄養クリニックの所長に就任されたため，ご自身で設計した動物飼育室で動物実験は出来なかったと残念がっていらっしゃいました。私が年末年始，動物実験で動物飼育室にこもっていると芳子先生が突然いらして，動物の種類や週齢，実験内容等を熱心に尋ねられ，一匹一匹をご覧になって，最後はラットの写真を撮り，ご自宅に戻っていかれました。動物慰霊祭にも必ず出席してくださり，ラットの遺影にむかって，学生達に「私も昔はこの子達にお世話になったのよ」と，ご自身がされていた実験を懐かしそうに思い出して話をされたり，「実験は楽しかった？」と話しかけてくださり，初めのうちは緊張した様子の学生も打ち解けて温かい雰囲気になります。これも芳子先生の学生達に対して愛情深く接してくださるお人柄によるものと思います。面白いのは，芳子先生はラットのことを「この子」と呼び，初めて聞いた時は驚きでしたが，いつの間にか私もラットのことを「この子」と呼ぶようになり，学生に笑われています。

芳子先生は，四群点数法の実践の場として開設された栄養クリニックの初代所長で，私は1999年~2003年まで管理栄養士として勤務しました。栄養クリニックのダイエットプログラム「ヘルシーダイエットコース」の初日と最終日の修了式には必ず芳子先生は出席され，初日には「食事記録は毎日つけてくださいね。食事記録をつけないと管理栄養士に怒られますよ」と励ましなのか，脅かしなのかわかりませんが，お言葉を掛けられ，修了式にはお一人お一人に修了証書をお渡しになり，その後，

エネルギーコントロール食によるビュッフェスタイルの会食を受講生と楽しまれました。私が着任した時「ヘルシーダイエットコース」は，全15回３か月，年３回開講でしたが，それでは受講生の自主管理能力が養われないと，全15回６か月，年２回開講とすることを当時の理事に提案しました。当然収入減になるので，ますます赤字を増やすのかとお叱りを受け，精神的にダメージを受けましたが，芳子先生からは，「受講生にとって良かれと思うことは誰が何と言おうと進めなさい」と，ありがたいお言葉をいただき，クリニックスタッフを信じてくださる芳子先生の包み込むような大らかさに救われる思いがして，感謝の気持ちでいっぱいでした。

芳子先生との思い出は語り尽くせません。芳子先生の栄養学への思い，学生への思い，学園への思いを我々教職員はしっかり受け止め，「実践」の文字を心に刻み，歩み続けたいと思います。末永く見守っていただきたく，改めて芳子先生のご冥福をお祈り申し上げます。



実践栄養学担当教員とともに（2012）